

## 1【青梅市教育委員会 学力向上5ヵ年計画】

—勉強好き、青梅好きの育成—

R5(2023)年⇒R9(2027)年(5ヵ年)

継続(学びに向かう力・人間性等等)

定着(知識・理解)

追究(思考力・判断力・表現力等)

## 2【学力向上に関する二小の課題】

- ① 「見える学力」(知識・技能)を高めること
- ② 「見えない学力」(思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)を「見える」ようにし、学びの意味を理解して学ぶことや学んだことを活用できるようにすること
- ③ 自ら学ぶ力を伸ばすために、家庭学習ができるようにすること

## 3【学力向上5ヵ年計画に対応した本校の重点】

「幸せ」をキーワードとし、すべての教育活動において児童が自己肯定感や自己有用性を感じられるように「意図的にほめること」を行う。

- ・学びの自覚を意識した授業づくりをする(めあて・ほめるをしかける・ふりかえり)
- ・知識・技能の定着を図る取組を工夫して自信を付けさせる
- ・家庭学習ががんばろう週間を設定し、活用する

## 【第二小学校の願い】

児童が「幸せ」になれるように高めてきた意欲を  
「学ぶこと」につなげて、「学力」を高めたい。

## 4【授業改善の取組】

- 「プチ授業公開」  
「プチ授業参観」を1学期中 50 回を目標として、「5」に示す3つの観点を意識した授業づくりに取り組む。

## 5【青梅市教育委員会研究指定校の取組(2年次/2年間)】

11月29日研究発表会

### 幸せな学校をみんなでつくろう ~ほめるをしかける~

- 「ほめる：をキーワードに学びを自覚させる授業を仕掛ける
- ①めあてを共有
  - ②身に付ける力を明確にした授業づくり(指導事項の具体化)
  - ③学びの振り返り場면을重視した授業づくり  
(指導と評価の一体化 主体的な学び)

## 6【家庭学習の推進】

- ①「自ら学ぶ」ためのスキルを身に付けさせ、家庭での学習に生かすことができるようにする。
- ②家庭学習の目的、計画の立て方、取り組み方を発達段階に応じて指導をする。「家庭学習ががんばろう週間」を設定し、取組を価値付ける。

## 7【一人一台端末の活用】

- ICTを学びの中で効果的に生かす指導に取り組み、特性を生かすことで学びの充実を図る。
- ①日常的なタブレットの活用を推進する。
  - ②研究を通じて効果的な活用方法を探り、共有する。

## 8【個に応じた指導体制】

- ① 算数科の習熟度別指導
- ② ステップアップクラス(火・木 放課後の補充授業実施)(学習支援員)
- ③ 保護者面談実施

【成果検証】 年度末に児童アンケート、保護者アンケート、教職員自己評価等をもとに検証する。